

清友

No.161

2023年1月
(2023年1月10日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

秩父札所 28 番橋立堂

明けまして おめでとうございます

2023年



みさき まぐろ満喫ツアー・城ヶ島ハイキングコースにて
(2022年10月18日)

○顧問	○顧問	○会計監査	○会計監査	○幹事	○幹事	○幹事	○幹事	○幹事	○幹事	○幹事	○事務局長	○副会長	○会長
庄司隆男	北條信治	小林守	穂戸田功	瀬戸朗	箱田修一	押田五郎	岡澤徹	山岸治美	岩渕勝美	戸枝章	佐藤晋一	丹野富士雄	

● 脱原発、核廃絶と基地撤去
● 改憲発議と軍拡路線阻止
● 「現・退一致」の取組みで、
資本や富裕層ばかり太る世を
変えるため、頑張りましょう。

● 人権尊重、全ての差別撤廃
● 東京清掃の闘い前進
● 脱原発、核廃絶と基地撤去
● 改憲発議と軍拡路線阻止
● 「現・退一致」の取組みで、
資本や富裕層ばかり太る世を
変えるため、頑張りましょう。

● 非正規労働の根絶
● 年金・医療・介護制度改善
● 退職者会の会員倍増
● 員拡大へ大きくジャンプ。



今年のお夢
今年の干支は「卯」。
「うさぎ跳ねる」、会

戦争は悲惨な死と貧困を残すだけ、岸田は退場を

東京清掃労働組合退職者会

会長 丹野 富士雄



会員ならびにご家族の皆さま、明けましておめでとうございます。本年も皆さまが健やかに過ごされましますよう、心より祈念いたします。

昨年、引き続きコロナ禍の中、岸田政権は安倍・菅政権と同様、国会無視・閣議決定で国の行く末を決め、日本を

戦争のできる国へ向わせようとしています。また、福島原発災害を忘れたかの原発政策大転換をグリーン戦略の名の下に押し通そうとしています。

一方、世論、特に若い世代ほどロシアによるウクライナ侵略に際して力による国防強化に賛成しています。私は

日ごろのご協力に感謝

統一地方選の必勝を

東京清掃労働組合

中央執行委員長 江森 秀稔



新年あけましておめでとうございます。日頃より退職者会の皆さんには、東京清掃労働組合の様々な取り組みに対し、ご理解・ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。年頭に当たり、ひと言ご挨拶申し上げます。

ロシア軍によるウクライナ

侵攻から間もなく1年が経とうとしています。お互いに死者傷者も多数出しており、社会インフラも滞っている状況も報道され、被害は隣国のポーランドにも及んでいます。一日も早い停戦とロシア軍の撤退を望むものです。

昨年の新型コロナウイルス

84歳を迎え、太平洋戦争を体験している最後の世代です。戦争に勝者も敗者もない、悲惨な死と貧困が残るだけです。鹿児島からの引き上げの途中、広島で脱線した貨車と原爆被災に衝撃を受け、数年後見た東京は一面が焼け野原でした。岸田政権が算出した防衛費は中身の積み上げなし、額ありきです。先の大戦で、国民に押しつけた戦時国債は紙くずと化しました。折しも、サッカーで沸くアルゼンチンのインフレ特集報道(朝日)で、ノ

ベル賞経済学者クズネッツは「途上国から先進国になった日本、途上国に転落したアルゼンチンは、財政赤字と金融緩和で共通、違いはドルを持っているかないかだ」と。防衛も原発も財政もでたらめな岸田自民党政権には退場を願うしかないようです。

退職者・高齢者の課題を始めとする社会的運動を「現・退一致」の立場で進めるとともに、会の行事を積極的に取り組みます。皆さまの一層のご協力をお願い申し上げます。

昨年行われた参議院選挙では自治労組織内候補「鬼木まこと」に、退職者会の皆さんの熱いご支援を頂戴致しました。改めて感謝申し上げます。そして今年は統一地方選挙が予定されております。昨年に続きわが組合の推薦候補へのご支援をお願い申し上げます。

最後に、皆さんにとってこの1年が健康で実り多い年となることを祈念申し上げます。年頭に当たっての挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新春の集い 1月28日(土)

- ▼時 間 11 時 45 分～14 時
- ▼場 所 飯田橋「焼鳥すいけん」(清掃会館のそば)
- ▼参加費 2,000 円
- *今年も「長寿祝い」や「開運ジャンケン大会」を行います。
- ▼募 集 早めに連絡ください。



コロナ対策は大丈夫?

政府はコロナを普通のインフルエンザ並みの区分へ移行させたいようですが、感染数は高止まりし死者も増えており、会の行事参加に躊躇されている会員も多いと思います。

参加者 募集中

3・11 2・13 1・28

「新春の集い」
「演芸鑑賞会」
「学習交流会」

演芸を楽しむ会 2月13日(月)

- ▼寄 席 「国立演芸場」2月中席(普通の公演)
- ▼時 間 13 時～15 時 30 分
12 時 30 分現地集合
- ▼参加費 500 円
- ▼募 集 1 月 31 日まで受付。



「コロナ対応方針」に基づき、『新春の集い』は「会食自粛」が出なければ実施、『演芸を楽しむ会』は公演中止にならないければ実施します。『学習交流会』の「懇親会」は中止もありえますが、参加募集中の行事はすべて実施する予定です。

春の学習交流会 3月11日(土)

- ▼テーマ 自民党改憲草案徹底批判
+ 現下の政治情勢と課題
- ▼講 師 加藤晋介さん
(元・鉄建公団訴訟主任弁護士)
- ▼時 間 13 時 15 分開会(予定)
- ▼参加費 500 円(懇親会を実施する場合)

お花見ウォーキング 3月28日(火)

- ▼場 所 小金井公園
- ▼実施方法 桜の木の下で車座に(武蔵小金井駅集合)
- ▼参加費 500 円(予定)



春のフィールドワーク 5月下旬か 6月上旬の予定

- ▼場 所 小石川後楽園
- ▼実施内容 散策とランチ
- ▼参加費 詳細は検討中



「近況報告」をよろしく

今年も、皆さまの近況をまとめた『会員の近況2023』を発行します。日常のごとや健康、趣味、現在関わっている運動、社会に関すること、今考えていることや興味をお持ちのことなど、何でも結構です。

また、詩歌や写真など得意な文芸ものもお寄せいただきたいと思います。紙面交流という面でも活用してください。



締切は2月10日、報告集発行は3月初めです。みなさんの投稿をお待ちしています。

第15回定期総会 6月16日(金)

※対面方式で開催し、可能ならば懇親会も行うつもりです。

年金・医療保険・介護保険制度の当面の課題

少子高齢化の急速な進行と団塊世代全員が後期高齢者になる25年を控え、今年は、年金・医療保険・介護保険制度改定の動きが進むと想定されます。

年金 被用者年金の適用拡大と基礎年金の拠出期間延長

●年金制度は、5年ごとに財政検証を行い、その結果に基づき改正する仕組みになっています。次期財政検証時期は24年ですが、課題を整理しておくことが必要です。

●前回の財政検証（19年）に基づく改正で、短時間労働者の被用者保険適用は事業規模50人超となり、さらなる拡大の方向性が確認されました。

●次期制度改正では、事業規模撤廃が課題です。フリーランスなど請負型労働への適用も早期に実現すべきです。資本側は被用者年金適用拡大は中小企業の経営を圧迫すると難色を示していますが、社会的責任を果せない企業には退場してもらうしかありません。

●もう一つの課題は、基礎年金加入期間延長です。60歳過

の保険料納付期間は基礎年金算定年数に含まれません。年金受給年齢は65歳ですから、基礎年金の納付期間は少なくとも65歳まで延長すべきです。

医療 後期高齢者医療保険の保険料引き上げ等が検討

▼少子高齢化対策などを名目に、現在、社会保障審議会医療保険部会で、①出産育児一時金引上げ、②後期高齢者医療保険の保険料引上げなどが論議されています。

▼出産育児一時金は、現行の42万円から50万円に引上げる（今年4月実施）としています。問題は原資です。後期高齢者にも一部負担してもらうとされており、具体的には24年度から保険料に上乗せし、2年間の経過措置後、26年度から平準化するというものです。

▼現役世代の負担軽減等を理由に、能力に応じた後期高齢者医療保険料引上げ案が示されています。具体的には、保険料上限額を現行の66万円から80万円に引上げ（経過措置で24年度は73万円、25年度

から本則）、年収153万円（年金収入のみの場合）以上に科せられる保険料の「所得割」部分の累進性を厚くし、「均等割」部分の比率を総体的に下げることとで、応能対応を強めるとしています。これにより、年収153万円以上所得者の保険料が引上げられることになります。

介護 給付の応能負担比率増は来年度実施の方向で検討

◆介護給付の増加を理由として、①要介護1・2事業の市町村移管、②給付の応能負担強化（「現役並み」2割負担）「一定以上所得」2割負担）「対象者を概ね30%程度へ」、③特別養護老人ホーム等多床室の室料負担等が、社会保障審議会介護部会に提案されました。

◆介護サービスは医療サービスと異なり、長期にわたり影響するという特性を踏まえた慎重論に考慮し、要介護1・2事業の市区町村移管は先延ばしされましたが、給付の応能負担問題は、24年度開始が目論まれており、今年の夏頃が重大局面になるとみられます。



都庁退定期総会 額額幹事が議長を担う

11月25日に東京都庁職員退職者連合会（都庁退）の定期総会が開かれました。

コロナ禍で苦心して事務局長会議、会長会議、学習会、バス旅行を実施したことが報告され、社会保障の拡充、平和と人権遵守、差別撤廃、組織拡大を目指して運動を進めていくことを確認しました。

額額幹事が総会議長を担い、成功裡に終わった総会運営に寄与しました。なお、来年、都庁退は20周年だそうです。



主催者挨拶する小林民治会長（都市整備）
総会議長は額額さんと小竹さん（福祉）

3年ぶりに「清掃・人権交流会」フィールドワーク

杉並清掃工場見学と東京ごみ戦争の歴史学習

12月18日、清掃・人権交流会のフィールドワークが3年ぶりに開催され、「杉並清掃工場見学と東京ごみ戦争の歴史学習・みらい館見学」が行われました。退職者会からは3名が参加しました。

さすが！最新鋭清掃工場

日曜日でしたが、杉並工場支部の協力で施設見学を行う事が出来ました。清掃工場出身の私は、久しぶりに施設を廻る事で、現役当時の感覚を思い出し懐かしく感じました。

若い参加者は、コロナ禍の影響で採用時の清掃工場見学が行われなかったため、今回が初めての清掃工場見学だったとのこと、真剣なまなざしがとても新鮮でした。

2代目の杉並清掃工場は、見学者を楽しませる工夫がいくつも施されており、工場の仕組みや能力、公害除去設備の充実等が良く説明されていて、さすが東京のご真ん中に

ある施設だと感じました。

炉室（実際に職員が点検などで作業する現場）の綺麗さにも驚かされました。炉室内は防塵マスク必須が常識ですが、マスク不要かと思うくらいの清潔感でした。ただ残念だったのは、中央制御室で働いていたのが委託労働者だったこと、「労働条件は大丈夫かな？」と考えてしまいました。

退職者会での企画も一考かと

清掃工場見学後、

杉並清掃工場支部の金子書記長による

「東京ごみ戦争」についての講義が行われました。江戸時代

のごみ事情から始まる「東京のごみ」の歴史と杉並清掃工場の誕生物語でもある

「東京ごみ戦争」の由来など詳細に亘る丁寧なお話を拝聴す

ることが出来ました。講義後、退職者会会員で元杉並工場支部長の岩田さんが「東京ごみ戦争」を振り返って、地元反対同盟『正用会』の内実などを披露し、当時の緊迫した情勢や動向などを説明されました。ちよつと長いお話でしたが、当事者に近い立場からの見識はさすがでした。最後に、併設されている『みらい館』を見学し、終了しました。

退職者会で清掃工場見学会をやってみるのもいいかなと思います。（箱田修一記）



戦争で私たちの未来を奪うな！



年明けの1月8日、新宿駅東南口で総がかり行動実行委員会青年PTの新春宣伝行動が行われました。司会を東京清掃品川区選出中執の高木さんが担当、最初の発言者は前青年部長の高野さん、東京清掃の若手は頑張っています。

その他の主な発言は、葛飾区議のみずま雪絵さん、総がかり行動実行委員会の菱山南帆子さんや全国一般南部の仲間など、「閣議で勝手に決めるな」「軍事費より介護現場に金を出せ」「新しい戦前への道を止めよう」などと訴えました。

「戦争準備で私たちの未来を奪うな！」という若い人たちの声に、退職者会も呼応していきたいと思っています。

北部から声を上げた とめよう軍拡！ もつな敵基地攻撃能力！池袋アクション

12月17日14時、岸田内閣の閣議決定の翌日東池袋中央公園で集会を行い、池袋東口を参加者200名でデモ出来ました。労組では北区ユニオン、東京清掃（杉並、練馬、板橋）は6人が参加くださいました。豊島の共産党区議が2名参加くださいましたが、集会だけで共産党地区委員会岸委員長とお帰りになりました。共

産党系の団体にも呼びかけましたが参加が無く残念でした。私は、事前の集会の企画と豊島区から公園を借りる手続き、日比谷集会や19日行動の議員会館前集会などでのビラまきによる参加呼びかけ、清掃労組へ職場回りをして参加要請を行い、集会当日は、トラメガ準備や会場設営などをやってきました。



マスコミなどにウクライナや台湾などでの危機を煽られ、敵基地攻撃能力保持、軍事費倍増やむなしの声が出ています。そうした中で立憲の敵基地攻撃能力容認なども噂されています。戦争で焦土と化したこの国の歴史を忘れたかのような流れを変えたく思っています。200名の仲間が北部で集まったことを大事にし、この国のあり方を閣議決定だけで変える実質改憲にあきらめず、軍拡競争に未来はないと闘い続けたいと思います。(吉田雅明記)

毎月19日に声を上げ続ける 「安保関連3文書」撤回！軍拡やめろ！

22年最後の19日行動は、12月16日に『安保関連3文書』改定閣議決定を強行した岸田政権に対する抗議と、立憲野党と市民の連帯による反転攻勢を目指す集会になりました。

閣議で何でも決めるな！

敵基地攻撃能力保有や軍事費大幅増は、実質改憲とも言える国の基本姿勢を変える重大事項です。それを国会にも諮らず閣議のみで決めるやり方は、独裁国家の手法と同じです。「閣議で何でも決めるな！」「安保三文書撤回、軍拡やめろ！」の声が国会前に大きく響き渡りました。

軍事費ではなく生活支援

主催者は「軍拡ではなく、子どもや若者が安心して暮らせるための教育無償化など、生活支援に税金を使うべきだ。長距離ミサイルを全国各地に配備し軍事要塞化することを許さない。戦争ではなく安全・安心、平

和な日本、東アジアをつくり出そう」と訴えました。

毎月国会前で声を上げよう！

市民からも、『ノーモア沖縄戦命どう宝の会』は「沖縄が再び戦場になることを許さない」、「池袋アクション」は「反対の声を広げ、東アジアの平和のため力を合わせよう」と訴えました。退職者会は、今年も毎月19日の国会前行動に結集していくつもりです。

